

品目：さといも

環境こだわり農産物の基準(5割以下の基準)

化学合成農薬(延べ使用成分数)

化学肥料(窒素分量)

4成分以下

15kg/10a以内

技術体系例 さといも

生育ステージ	作付前		植付前	生育期間中										
	作付体系	作付前	植付前	全般			生育初期			生育中期			生育後期	
防除方法 ・ 使用資材 ・ 薬剤名等	ほ場ローテーション	種芋更新	種子消毒	捕殺	病害株の引き抜き	フェロモントラップ	黄色灯	殺虫剤	(臨時防除)殺虫剤	B T 剤	B T 剤	殺虫剤 (ハダニが多い場合)	殺虫剤	B T 剤
乾腐病		★												
黒斑病	★	★	●		★									
ハスモンヨトウ				★		★	★	●		★	★		●	★
アブラムシ類								●						
ハダニ類												●		
ネキリムシ類	★	★							●					
(例)使用農薬			ベンレートT水和剤20			フェロディンSL		アディオソ乳剤	ネキリエースK	ゼンタリー顆粒水和剤	ゼンタリー顆粒水和剤	サンマイトフロアブル (ハダニが多い場合)	ラービンフロアブル	ゼンタリー顆粒水和剤
化学合成農薬成分数			2					1	(1)			(1)	1	

注) ●: 薬剤防除対象病害虫、★: 天然資材または耕種的手法

農薬の登録は随時変更があるので、農薬の使用にあたっては、必ず農薬ラベルを確認し適正に使用する。

* 印のものは、登録の対象害虫等が限られているので登録を確認する。

ほ場周辺は除草剤を使用せず、草刈機による管理またはグランドカバープランツを植栽する。

害虫 **ハスモンヨトウ**



ハスモンヨトウの幼虫



ハスモンヨトウの幼虫の集団
(葉を取り除く)

発生しやすい時期

8月中旬頃～10月中旬頃

原因（発生要因）

- ・成虫が飛んできて、卵を産みつけます。

対策（減農薬技術）

- ・8月頃からほ場をよく見回り、卵の塊や、幼虫が小さく集団でいる間に、葉ごと取り除いてほ場の外に持ち出します。
- ・BT剤（化学合成農薬として数えない農薬）を利用します。

害虫 **アブラムシ類**

発生しやすい時期

7月中旬～8月中旬頃

(梅雨明け後)



アブラムシ

原因（発生要因）

- ・ アブラムシの成虫が飛んできます。
- ・ 乾燥した時に、増えることがあります。

対策（減農薬技術）

- ・ 光るものが嫌いなので、銀色のテープなどをほ場に張ります。
- ・ シルバーマルチを利用すると、アブラムシの飛び込みを減らすことができます。
- ・ 1枚の葉の裏にひとつ以上の緑色の小さな虫の塊があれば、農薬を散布します。